

ミュージア川崎市民合唱祭 2013 に出演！

7月7日（日）、富士通川崎合唱団は、今年4月にリニューアルオープンしたばかりのミュージア川崎シンフォニーホールにおいて開催された「ミュージア川崎市民合唱祭 2013」に出演しました。

このイベントは、2004年に第39回を開催した「川崎合唱祭り」を継承し、同年7月のホールの落成以降はミュージアでの開催ということで「ミュージア川崎市民合唱祭」となった、川崎市・川崎市合唱連盟・川崎市文化財団グループ主催の合唱の祭典です。今年は2日間にわたり約90団体が12ブロックに分かれて出演しました。当団が出演するのは、2008年以来5年ぶりとなります。

【演奏内容】

■曲目：

Northern Lights（作曲：O. Gjeilo）

■指揮：加藤雅子



演奏後、ホール入り口前に集合♪

今年の市民合唱祭は、2011年東日本大震災で受けた天井崩落の被害の復旧工事が完了し、生まれ変わったミュージア川崎シンフォニーホールで開催されました。音響の良さは世界的音楽家たちからも折り紙付きであるこのホールで演奏することは、私たちにとってはとても贅沢でうれしいことです。また、当団は日頃より、地域のみなさまに喜んでいただきながら団や会社のファンを増やしていくことを目標としていますが、まさにうってつけのイベントです。

私たちの演奏曲目は、ノルウェーの新進作曲家オーラ・イエイロが、旧約聖書の「雅歌」＝恋愛の賛美を歌い上げる詩に、美しく神秘的な「北極光」＝オーロラのイメージで曲をつけたものです。オーロラを実際に見たことのある団員はいないようですが、美しいけれども、時には不思議な恐ろ

しさを感じさせ、うねりながら明るくなったり暗くなったり、急に消えたかと思うとくすかに残っていたり...というオーロラの情景を想像しながら練習を重ねてきました。



ステージでは、「音楽のまち・かわさき」のシンボルでもあるこのホールに、数年ぶりに帰ってきたという感動と共に、少々緊張しながらも無事歌い上げることができました。

他の団体も、それぞれ独自の持ち味を活かした積極的な演奏ばかりで、とても刺激を受けました。講評の先生方からは、女声は明るい音色・男声は安定した声で、アンサンブルが美しく、オーロラの神秘性を充分表現できていた、というありがたいお言葉をいただくことができました。

なお、この曲は、今年度も出場することが決まっている合唱コンクールで自由曲のひとつとして演奏します。9月1日

(日)の県大会へ向けて約1ヵ月半、さらに美しく劇的に表現ができるように練習を重ねていく所存です。



▲プログラム



▲新生ミュゼシンフォニーホール



▲最後は関東一本締め！



▲新天地へ向かう団員と再会を誓う胴上げ！！

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団（アルト）駒澤由佳】